

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 『医療・福祉・在宅の症例に学ぶ栄養管理マニュアル:第1章 医療・福祉・在宅の栄養管理;第1節 基礎栄養』	単著	令和7年4月	NAP (ナップ)	本書では、「栄養の定義」、「糖質の栄養」、「脂質の栄養」、「たんぱく質の栄養」について解説した。(三宅紀子監修、紅谷加津江・西宮弘之・高田健人共編著) 全 pp117(pp1-8)単著 著者: <b>藪 健史</b>
2 (著書) 食物栄養学科研究室紹介:強力な抗酸化物質セレンオニンの実用化	単著	令和5年5月	文化生活 (新渡戸文化短期大学)	本書では、研究室の取組みについて紹介した。(宮地勇人 編著) pp.25、(総ページ数:35頁) 著者: <b>藪 健史</b>
3 (著書) 人生100年時代の学び～Nitobe style の生涯学習～我が国の超高齢化社会における健康;「健康寿命」の延伸に向けて 文化生活	単著	令和5年5月	文化生活 (新渡戸文化短期大学)	本書では、健康寿命の延伸に向けての方策について解説した。(宮地勇人 編著) pp.3～4、(総ページ数:35頁) 著者: <b>藪 健史</b>
4 (学術論文) Characterization of fish-specific IFN $\gamma$ -related binding with a unique receptor complex and signaling through a novel pathway.	共著	令和6年 1月	<b>FEBS Open Bio.</b> <b>14</b>	本研究は、魚類の IFN $\gamma$ -related リガンドを介する受容体と、リガンドが結合することによって生じるシグナル経路を明らかにした。 Shibasaki Yasuhiro, <u>Yabu Takeshi</u> , Shiba Hajime, Moritomo Tadaaki, Mano Nobuhiro, Nakanishi Teruyuki. pp532–544. DOI: 10.1002/2211-5463.13769 共同研究につき本人担当部分抽出不能
5 (学術論文) カイコにおける Fas リガンド様タンパク質の機能解析	共著	令和5年 2月	<b>新渡戸文化短期大学学術雑誌</b> <b>13</b>	本研究は、カイコ Fas リガンドのリコンビナントタンパク質の精製し、本リガンドの細胞死誘導能を調べて、ED50 値を明らかにした。本リガンドは、幼虫期から蛹期へと変態する過程で、デスシグナルを活用して組織崩壊の誘発に生理的な機能を果たすことが明らかにした。 <b>藪健史</b> , 柳田晃佑, 司馬肇. pp.1-11, 2023. 共同研究につき本人担当部分抽出不能

所属・氏名 (健康科学部 医療栄養学 氏名：藪健史)	6 (学術論文) Alteration of hemoglobin $\beta$ gene expression in mucosal tissues of Japanese flounder, <i>Paralichthys olivaceus</i> , in response to heat stress, <i>Edwardsiella piscicida</i> infection, and immunostimulants administration.	共著	令和4年 1月	<b><i>Fish Shellfish Immunol. Reports</i></b> <b>3</b> <b>100049.</b>	本研究は、熱ストレス、細菌および免疫賦活剤投与より粘液組織のヘモグロビン $\beta$ の遺伝子発現が変化することを見出した。 共著者：Misato Mori, Yasuhiro Shibasaki, Aki Namba, <u>Takeshi Yabu</u> , Noriko Wada, Hajime Shiba, Hiroshi Anzai, Hajime Shiba, Nobuhiro Mano. doi: 10.1016/j.fsirep.2021.100049 共同研究につき本人担当部分抽出不能
	7 (学術論文) Enhancement of immune proteins expression in skin mucus of Japanese flounder <i>Paralichthys olivaceus</i> upon feeding a diet supplemented with high concentration of ascorbic acid.	共著	令和3年 4月	<b><i>Fish Shellfish Immunol</i></b> <b>20 (114)</b>	本研究は、高濃度アスコルビン酸をヒラメへ給餌し、皮膚粘液における生体防御関連分子の発現を二次元電気泳動で調べた。その結果、皮膚粘液で生体防御関連分子が、著しく発現が増強することが明らかとなった。本研究より、生体防御を強化することが可能なヒラメ試料の開発に成功した。 pp20-27. Doi: 10.1016/j.fsi.2021.04.009. 共著者：Misato Mori, Tasuku Ito, Ryota Washio, Yasuhiro Shibasaki, Aki Namba, <u>Takeshi Yabu</u> , Dai Iwasaki, Noriko Wada, Hiroshi Anzai, Hajime Shiba, Teruyuki Nakanishi, Nobuhiro. Mano. 共同研究につき本人担当部分抽出不能
令和 7年 4月 18 日 現在					